療法名 **S−1単剤**

適応 大腸癌

抗癌剤適応分類 進行･再発癌･術後補助化学療法

| | |
|---|---|
| 第2版 | 2025年1月改訂 |
| 登録番号 | 大腸－29 |
| 登録年月日 | 2013年12月 |

| 投与順 | 抗癌剤名（一般名） | 【略語】 | 1日投与量 | 投与法 | 投与時間 | 投与日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **エスワンタイホウ®**<br>（テガフール･ギメラシル･オテラシルカリウム） | S−1 | **80mg/m$^2$ ※** | 経口 | 朝･夕食後 | d1～28 |

| | day | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | … | … | 42 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| S−1 | 80mg/m$^2$※ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | | | |

| | |
|---|---|
| 1コース期間<br>（次のコースまでの標準期間） | 6週：4週投薬後2週休薬 |
| 総コース数 | 原則PDまで |
| コース間での休薬規定 | なし |

| | |
|---|---|
| 減量規定･中止基準 | Grade4の血液毒性、Grade3～4の非血液毒性<br>※S−1は体表面積に合わせて投与量を調節する：1.25㎡未満→40mg/回、1.25㎡～1.5㎡未満→50mg/回、1.5㎡以上→60mg/回 |
| 投与量の増量規定 | なし |
| 投与間隔の短縮規定 | 副作用発現等によっては2週投薬、1週休薬への変更可能 |
| コースによる変化 | なし |
| 1日の中での抗癌剤投与順 | 単剤のためなし |
| プレメディケーション | ルーチンではなし |
| ポストメディケーション | |

| | |
|---|---|
| 主な副作用 | 下痢、口内炎、骨髄抑制、嘔気、全身倦怠感、色素沈着、皮疹など |
| 患者条件 | 全身状態良好(PS0～2)、主要臓器の機能が十分に保持されている、白血球数3000/mm$^2$以上、好中球数2000/mm$^2$以上、血小板数100000/mm$^2$以上、ヘモグロビン9.0g/dL以上、総ビリルビン2.0mg/dL以下、AST･ALT150U/L以下、血清クレアチニン1.2mg/dL以下 |
| 除外規定 | 経口摂取不能患者(胃瘻投与は顆粒製剤で対応可能) |
| | 中等度の以上の胸水、腹水貯留を認める |
| 実施上の注意点 | フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍薬、フッ化ピリミジン系抗真菌薬とは併用しない。<br>フェニトイン、ワルファリンカリウムとの併用により副作用増強 |

| | |
|---|---|
| 治療成績 | ①進行･再発※第Ⅱ相臨床試験より<br>･50%以上の腫瘍縮小が2クール以内に認められる確率88.1%(37/42)<br>･初回化学療法例に対する奏効率は25.0%(4/16例)<br>②術後補助※ACTS−CC(第Ⅲ相臨床試験)より<br>結腸癌術後補助においてUFT/LVに対する非劣性の証明が行われた。DFS、3年OS共に非劣性証明済み。 |
| その他 | 添付文書においては術後補助化学療法の適応は認められていない。 |

参考文献 南江堂 リスク別 がん化学療法レジメン 改訂第2版
じほう がん化学療法ワークシート 第3版
大鵬薬品 TS−1適正使用ガイド